様式３

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		令和５年度　第１回　相模原市支援教育ネットワーク協議会		
事務局 （担当課）		学校教育課　電話０４２－７６９－８２８４（直通）		
開催日時		令和５年７月２６日（水）　１４時００分～１６時００分		
開催場所		教育委員会室		
出席者	委　員	７人（別紙のとおり）		
	その他	４人（別紙のとおり）		
	事務局	５人（藤岡担当課長、松原指導主事、原指導主事、小野指導主事、桑畠看護師）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議　題		１　開会 ２　挨拶 ３　委員長・副委員長選出 ４　議事 （１）令和５年度支援教育ネットワーク協議会について 〇ネットワーク協議会の役割 （２）第２次相模原市教育振興計画について 〇令和５年度前期進行管理シートについて 〇令和５年度重点項目について （３）協議 〇支援教育における国の動向と本市のあり方について ５　閉会		

議　事　の　要　旨

１　開会

２　挨拶

３　委員長任命

　相模原市支援教育ネットワーク協議会設置要綱第４条に従い、委員の互選により、安藤委員を委員長として任命した。

４　議事

（１）令和５年度支援教育ネットワーク協議会について

〇事務局より、支援教育ネットワーク協議会の役割について、資料に沿って説明した。

（２）第２次相模原市教育振興計画について

〇事務局より、第２次相模原市教育振興計画及び令和５年度進行管理シートについて、資料に沿って説明した。

（安藤委員長）　８年間にわたる長期計画である教育振興計画において、３年間が経過した現在、中間評価を行っているのか。

（学校教育課長）　教育委員会において、毎年点検評価を行っており、結果を公表している。

（安藤委員長）　目標を立てて終わりではなく、点検評価を継続し、目標についても適切な見直しを行っていただきたい。

〇事務局より、令和５年度重点項目について、資料に沿って説明した。

【目標①施策①項目①】「全ての教育活動を通じたキャリア教育の推進」について

（安藤委員長）　キャリア教育の推進を目標に掲げていることを評価するが、具体的にどのような取組や課題があるか。

（大里委員）　生活単元学習において、買い物学習を実施している学校が多い。昨年度参観した授業では、小学校と中学校で、それぞれ同じ内容を学習していた。発達の段階や個に応じたキャリア教育を考えられると良い。キャリア教育という名称ばかりが先行し、実態が伴っておらず、児童生徒の職業的・社会的自立を促す内容に至っていないケースもあるのではないか。

（安藤委員長）　教育課程をどのように設計するかが、重要になってくる。小中学校における、キャリア教育の取組は、いかがか。

（中里委員）　本校でも買い物学習をしているが、教科のねらいを達成しながら、キャリアの価値を見出すことは、難しさもある。授業を参観した後に、具体的な場面を認め、価値付けていくことで、担任もキャリアの視点を意識できるようになると感じる。
（小泉委員）　私自身、小学校の校長から、今年度中学校の校長になり、大里委員の発言について同感である。小学校で既にやっていることについて、中学校で指導している場面が見られる。また、中学校においても校外学習が、キャリアの学びを深める機会となっている。
（飯窪委員）　高等部になると卒業後に向けて、職業的な意味でのキャリア教育の内容も増えるが、高等部だけでなく、小学部、中学部においてもキャリア教育は必要である。教科等の系統性を意識した教育課程を編成していく必要がある。
（安藤委員長）　県においても、就職率を上げたり、充実した進路指導を行ったりするために、専門の部署を置いて取り組みを進めている。「キャリア教育」は新しい考え方ではなく、以前からある「進路指導」の理念に則ったものであると捉えている。社会の変化に応じて、将来自分がどのように生きていくのか、小さい頃から教員も一緒になって考えていく必要がある。

【目標③施策⑨項目④】「県立特別支援学校との連携」について
（飯窪委員）　県立特別支援学校のセンター的機能について、多く活用いただいており、今年度は、教育相談コーディネーター２名、専門職２名を配置している。基本的には、学校訪問による支援を行っているが、教育相談コーディネーターが２名とも不在にすると、学校事情としても厳しいのが現実である。相談内容によっては、電話や放課後等にしていただけると助かる。出張が厳しい状況にあるかもしれないが、実際に特別支援学校を見学し、学ぶ機会も設けていただきたい。
（安藤委員長）　支援学校の教員との顔合わせの機会は、どれくらいの頻度で行っているのか。
（事務局）　年に１回、支援教育コーディネーター研修で実際に顔を合わせている。その他、学校からの要請に応じて実施している。
（中里委員）　小学校において、市内３区、それぞれ年に６回程研究会を実施しており、研修の講師等をしていただいて助かっている。
（安藤委員長）　重点項目について、順次評価して終結していかないと、延々と毎年同じことをやることになる。
（事務局）　センター的機能について、ケース会議で終わるのではなく、校内支援体制の充実を目指していけるようにしたい。
（安藤委員長）　個別の案件は、もぐらたたきのようにどんどん出てくる。校内支援体制の充実につなげていくには、管理職の理解が不可欠であり、校長会でセンター的

機能のねらいを伝えていくことが、質を高めることにつながる。そして、小中学校等のコーディネーターが、管理職と戦略的に動けるようになる良い。
（中里委員）　専任のコーディネーターを配置し、管理職と連携を図りながら、校内の支援体制を整えていくことが望ましい。しかし、専任のコーディネーターがいないのが、学校の現状である。
（小泉委員）　資料について、用途が分からない。どのように活用するか、ブラッシュアップできると良い。
（事務局）　フローチャートにした資料もあるが、今回は示さなかった。支援コーディネーター研修等で周知していく。

【目標③施策⑩項目①】「人的支援の充実」について
（安藤委員長）　繰り返しになるが、他自治体と比較しても相模原市の人的配置は充実しており、たいへん評価している。
（千谷委員）　支援教育支援員については、学校規模や学校事情により、様々な活用事例があると聞いている。その一例として、二次障害で教室に入れないお子さんが、「保健室→特別教室→教室」というように段階を経て、教室で過ごせるようになり、支援教育支援員の効果的な活用のおかげで人生が変わったそうだ。
　各学校で知恵を絞り、効果的な活用を考えていることはすごいことである。ただし、市民から見て、離席の支援や指導等では、納得がいかない部分もあるだろう。不適応行動の氷山モデルでいうと、氷山の上に出ている部分にフォーカスしても効果は薄い。氷山の下部にアプローチしないと、もぐらたたきになる。私は、支援教育支援員の好事例を知っているだけに、更に効果的な活用事例をたくさん集め、市民に対して素敵な取組であることを周知していくべき。
（安藤委員長）　その通りだと思う。評価には、数値が出てこないと分からない。事例数も重要なファクターかもしれないが、定量的なデータをどこかの学校で取って検証するといい。
（中里委員）　支援教育支援員は、校内支援体制を充実させるための一員。管理職がリーダーシップを発揮し、支援教育支援員と話し合いながら、ねらいを明確にしていく必要がある。そのねらいに対して、成果をアピールしていけると良い。
（安藤委員長）　データのとり方を、どうしていくか検討し、実験し、検証する。どれだけの子どもが、救われているかがポイント。
（小泉委員）　小学校において、児童支援専任・支援教育コーディネーターと、支援教育支援員がうまく連携できていると、子どもたちの状況に応じて、適切な支援を行うことができると感じる。そのようなシステム作りを、目指していく必要がある。
（安藤委員長）　データを集めるとともに、効果的なシステムについて発信してもらいたい。

【目標③施策⑩項目②】「学び場の整備」について
（安藤委員長）　今後、通級指導教室を増やす予定はあるのか。
（青少年相談センター所長）　現在のところ、予定はない。
（安藤委員長）　今後は、どのような制度設計にしていくのか。
（青少年相談センター所長）　新たに開設すべきか、今開設している学校を拠点校にし、教員が巡回した方が良いのか、情報収集していく。
（安藤委員長）　足立区で、全校に通級指導教室を作った例がある。秋に視察に行く予定なので、その状況も踏まえながら、今後の在り方を検討いただきたい。
（富川委員）　医師会の学校医研修会においても、相模原市の特徴として、支援級は全校にあるものの、通級指導教室は比較的少ないとの話があった。子ども家庭庁の目標として、通級指導教室を増やすとの発言があったとも聞いている。また、通級指導教室への送迎や交通費について、親の負担が大きいとも聞く。通級指導教室の増設を、検討いただきたい。
（大里委員）　校長をしていた時に、支援教育支援員を活用して、校内に通級指導教室のようなシステムを作っていた。支援教育支援員の活用事例の１つとしても良いのではないか。大学の卒業生が、支援級の増加と教員不足の要因で、他県で新採用とともに、経験がないにもかかわらず、巡回型通級指導教室の担当を任された。通級指導教室を作ることも重要だが、人材育成等の課題を解決する必要がある。
（安藤委員）　通級のあり方や通常級をどのように支援するのかを、本気で考えていく１年目にしてほしい。

【目標③施策⑩項目⑤】「医療的ケア児に対する支援の充実」について
（富川委員）　今後、宿泊学習について検討していく必要がある。昨年度から、相模原市全体の医療的ケア会議が実施され、各課が実施している内容を一元化して情報共有ができる場ができたことを評価している。

【目標③施策⑪項目①】「不登校・いじめの未然防止に向けた取組」について
（安藤委員長）　いじめについて、相模原市ではどのような取組をしているか。
（学校教育課長）　本市の特徴として、スクールロイヤーが教育委員会に常駐しており、法的知見を持って、学校への指導・助言をしている。
（中里委員）　学校でも教職員向けに人権研修を実施し、いじめの内容を取り入れている。
（小泉委員）　道徳の年間計画の中で、意図的にいじめに触れる時間や、子どもへいじめに関わるような話をしたり、人権作文コンテストの作品を朗読したりしている。生徒会で自主的に、いじめゼロを目指す取組を推進している。

（学校教育課長）　本市では、毎年各区で、区では３年に１度いじめフォーラムを実施している。子どもたち自身がそれぞれの学校や児童会・生徒会の取組を情報交換することで子どもたちの意識啓発を図っている。
（安藤委員）　無記名でのアンケート等は、継続されているか。また、効果はあるか。
（学校教育課長）　本市の特徴として、子どもたちの声や学校側からのいじめの発見が高く、アンケートの効果は大きいと考えている。
（飯窪委員）　ＳＮＳを使った「見えない」「いじめるつもりのない」いじめが増えている。大人が知らないところで、ＳＮＳを使用することに、現代の子どもたちは長けている。いじめアンケートで顕在化するのは、ほんの一部。学校・家庭が連携し、場合によっては警察による介入も検討すべき。
（小泉委員）　小学校では、親が相手の子に直接メッセージを書き込む等、親を巻き込んだＳＮＳトラブルもあると聞く。学校は、保護者と子どもに啓発していく必要を感じる。

【目標③施策⑩項目⑥】「学校サポーター制度の導入」について
（中里委員）　本校は、制度の導入当初より、学校サポーターに協力いただいている。講座の１期生３名、２期生１名、計４名、週１回か２回程度、ボランティアとして来ていただいている。講座を受講しているので志が高い。困っている子たちに、上手に関わったり、担任も気づかないことを言ってくれたりする。ボランティアだが、せめて交通費を支給できる制度づくりをお願いしたい。

（３）協議
〇支援教育における国の動向と本市のあり方について
（安藤委員長）　教育課程を、どのように編成していくかが重要である。「すまいる365」の中に「特別な教育課程編成の例」があるが、毎年新たな人を集めてリニューアルしていくと、特別支援教育の理解が深まり人材育成にもつながる。
　教育課程の編成については、昔は県が担当していた。県が特別支援学校を設置し、特別支援教育を担当していたので、県がそのノウハウを持っていた。市町村は、比較的ノウハウは少ない。支援教育の特例編成の認可権が市に移ってからは、市町村は必死にやっているが、多様な教育的ニーズに対して、どのような教育課程が適切であるか判断するのは、困難であるのが現実である。
　研究会等で十分話し合いをしながら、支援級の教育課程を、目の前にいる子どもの状況から、作成していってほしい。
（大里委員）　特別支援教育において、教育課程を作れる醍醐味はすごい。文部科学省が決めた教育課程ではなく、その子に応じて担任が作れるということは、すごいこと。この醍醐味は、やってみた人でないと分からない。教育課程について、支援学級

の担任が力をつけることとともに、管理職もそのことを知ってほしい。
（千谷委員）　子どもによっては、４５分間席に着くことが難しいことがある。授業の内容は大抵１０分で理解できる子なので、残りの３５分は自由に過ごさせてあげたい。通常の学級にいると、みんな４５分間座っている中で、「自分だけできない」という気持ちになり、「自分が駄目だ」と思えてしまう。そして、学ぶ意欲が低下してしまう。そのような姿を見ると悲しくなるので、適切な支援を届けたい。
（安藤委員長）子どもの状況に応じて、１５分のモジュールで授業をやってもよい。そうした柔軟な教育課程を編成してほしい。
（千谷委員）　「それでいいんだよ」と子どもたちにも伝えてほしい。
（中里委員）　初めて支援級を持った担任に「すまいる 365」を渡して、それを参考に教育課程の編成をするように話をしている。児童の学年や実態を考慮して、教育課程の編成についてアドバイスをしている。多様な教育的ニーズがある中でも、特別支援学級に関わりたいという教員が増えていることは喜ばしいこと。
（小泉委員）　市内には色々な書式があり、提出方法も様々である。まずは、管理職が通知の趣旨を、理解できるようにしていきたい。
（飯窪委員）これまでの経験より、特別支援学校の教育課程しか分からないので、これを機会に、「すまいる 365」を読み込んで理解していきたい。特別支援学校の担任においても、悩みながら教育課程を作成している。
（富川委員）　保育園にいる子どもが、小学校へ行っても、環境の変化が少ないように保育園研修マニュアルをつくっている。巡回に行ったり、保護者に児童の課題を気付かせたりするような取組を継続している。保育士に代わって、陽光園や子育て支援センターが発達相談を行うような体制は作ってある。発達相談を行うことができれば、就学相談に繋がるはず。そうしたシステムが、効果的に機能するよう医師会も協力していきたい。

５　閉会

令和５年度相模原市支援教育ネットワーク協議会委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	安藤 正紀	学識経験者	玉川大学　学生支援センター 障害学生支援コーディネーター	出席
2	大里 朝彦	学識経験者	相模女子大学 子ども教育学科　特任教授	出席
3	富川 盛光	医師	相模原市医師会　理事 おださが小児アレルギー科院長	出席
4	千谷 史子	臨床心理士	こども広場 ワンダーステップ所長	出席
5	飯窪 美紀子	神奈川県立特別支援学校	神奈川県立 相模原支援学校校長	出席
6	中里 雅子	市立小学校長会	相模原市立 向陽小学校校長	出席
7	小泉 勇	市立中学校長会	相模原市立 鵜野森中学校校長	出席

＜オブザーバー＞

8	沼田　好明	健康福祉局　地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課	課長	―
9	森　紀子	健康福祉局　地域包括ケア推進部 福祉基盤課	課長	―
10	山本　克哉	こども・若者未来局 陽光園	所長	―
11	金井　多恵	こども・若者未来局 中央子育て支援センター	所長	―
12	髙野　靖彦	こども・若者未来局 子ども家庭課	課長	―
13	櫻井　敏朗	こども・若者未来局 こども・若者支援課	参事（兼）課長	―
14	遠山　芳雄	こども・若者未来局 保育課	参事（兼）課長	―
15	白井　由美	市民局 スポーツ推進課	課長	―
16	松本 陸人	教育局　生涯学習部 生涯学習課	参事（兼）課長	出席
17	丸小野　美紀	教育局　学校教育部 学校保健課	課長	―
18	米山　守	教育局　学校教育部 学校施設課	参事（兼）課長	―
19	中井　一臣	教育局　学校教育部 教職員人事課	課長	―
20	奥津 光郎	教育局　学校教育部 教育センター	所長	出席
21	加藤 政義	教育局　学校教育部 青少年相談センター	所長	出席
22	三谷 将史	教育局　学校教育部 学校教育課	課長	出席